

伊丹市 文化財ボランティアの会

発行:伊丹市文化財ボランティアの会

発行所:伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課内(伊丹市千僧1-1-1)



INDEX

▶ 史跡ガイドレポート

- ①体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」がスタート! ----- P 1
- ②第2回体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」開催 ----- P 2
- ③春爛漫、桜がお出迎え「城下町と清酒発祥の地、伊丹」 ----- P 3
- ④ガイドの楽しみ～依頼者との出会い・触れ合い・語り合い～ ----- P 4
- ⑤ガイドコースのご要望対応 ----- P 5

▶ 研修サロン班活動報告

伊丹旧村めぐり 「中野 (Revival)」 ----- P 6

近隣市めぐり 「服部天神から春日大社南郷目代今西氏屋敷」 ----- P 7

近隣市めぐり 「灘・酒蔵巡り」 ----- P 8

▶ 「GI 伊丹」このマーク、ご存知ですか? ----- P 9

▶ 令和7年度 市民ガイドの予定 『伊丹市内 西国街道を巡ります』 ----- P 10

▶ 令和7年5月～7月活動記録 ----- P 10

▶ 令和7年8月～10月活動予定 ----- P 10

▶ 伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内 ----- P 11

▶ 伊丹市文化財ボランティアガイド養成講座のご案内 ----- P 11

史跡ガイドレポート ①

体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」がスタート!

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに開催中の大阪・関西万博。万博開催期間中、兵庫県をパビリオン、地域の現場をフィールドとして「見て・学び・体験する体験型地域プログラム」のひとつ、伊丹市主催の体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」がスタートしました。5月21日（水）に開催されました当プログラム第1回の模様をレポートします。

10時30分、集合場所のJR伊丹駅を出発。江戸時代、清酒発祥の地伊丹の中心であった「伊丹郷町」の町並みを想起させる「伊丹酒蔵通り」を西に向かって進みます。通りに面した「大溝跡」で清酒発祥の地伊丹の成り立ちを、小西酒造直営の白雪ブルワリービレッジ長寿蔵の前では1550年創業の小西酒造の歴史を、三軒寺広場前の老松酒造本店の前では1688年創業の老松酒造の歴史と日本酒に欠かせない水、「伊丹の伏流水」について紹介しました。続いて、伊丹の文化ゾーン市立伊丹ミュージアムに向かい、江戸時代に建てられた町家、旧岡田家住宅・酒蔵等を紹介。最後に、当プログラムのメインである白雪ブルワリービレッジ長寿蔵へ。長寿蔵の二階展示室では酒造り道具等の展示をみながら江戸時代の日本酒造りの工程を紹介して当会のガイドを終えました。



当会の史跡ガイドでは個々の史跡・文化財の歴史的価値の紹介が多いのですが、今回は清酒発祥の地伊丹の歴史をストーリー風にご紹介するという点で普段のガイドと大きく異なるところがあります。今回のガイド担当の当会T.A.氏の説明は、会員であるレポーターですら聞き入ってしまうほどにわかりやすい説明でした。フリップボードを交えた説明に「なるほど！」と感心したり、頷いたりする参加者の表情が印象的でした。今回のツアー参加者は5名。大阪から参加の御夫婦は酒蔵巡りが趣味ということで、1週間前にも灘五郷の酒蔵を巡ってきたとお話下さいました。ご主人はプログラム最後の「日本酒のマリアージュ」を楽しみにしているそうです。また、伊丹市内在住の若い女性は日本酒が大好きということで参加されたそうです。普段、何気なく見ている建物等にもいろいろな歴史があることに感動したとお話下さいました。

ツアーガイド終了後の長寿蔵レストランにおける「日本酒のマリアージュ」においては、提供された日本酒、日本酒に合う料理についてレストラン店長自らの説明があり、参加者はたいへん満足されたと、後日参加者からお聞きしました。

奇しくも、この日（5月21日）は「令和6年度全国新酒鑑評会」の結果発表の日でした。都道府県別の金賞受賞数では福島県と並び、兵庫県が2年連続で全国最多の16の銘柄で「金賞」を受賞、その中で伊丹の小西酒造白雪も選ばれました。ガイド中にご紹介することが出来ませんでしたので、ここにご紹介させていただきます。

この体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」は10月までに5回開催が予定されています。第2回（6月21日）、第3回（7月12日）は定員満員で募集を締め切っている

ようですが、9月、10月については8月に参加者募集が行われるようです。

詳しくは、下記の伊丹市都市活力部まち資源室 空港・にぎわい課へお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：都市活力部まち資源室空港・にぎわい課 電話番号 072-744-2088

（記 吉岡）

史跡ガイドレポート ②

第2回 体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」を開催

6月21日（土）に開催されました体験型地域プログラム「『清酒発祥の地 伊丹』を五感で体感」第2回の模様をレポートします。今回も「伊丹広報」にて参加者を募集しての開催になりますが、定員を超える11名の参加者に、主催者2名、ボランティアの会員3名の総勢16名で開催されました。参加者の中には当会史跡ガイド常連の方もおられました。

参加者全員が早々に揃われたので、主催者の判断で定刻より10分早い午前10時20分にプログラムがスタート。主催者側の挨拶に続いて、主催者から渡された「日本酒」を彩った法被を羽織ったガイド担当の当会会員Y.H.氏より、本日のガイド内容についての説明があり、これから始まるという雰囲気が盛り上がってきました。特に、ここ数日の暑さを踏まえ、万一の体調不良の場合は我慢せず早めに申し出でていただくようにとお願いしたうえ、全員元気に出発となりました。

伊丹酒蔵通りを歩きながら、通り沿いの長屋造り店舗の特長（むくり屋根・厨子二階造り等）の説明があり、江戸時代の街並みの再現を意識しての造りになっていること紹介させていただきました。参加者、「なるほど！」という感じで聴いておられました。次に、大溝跡と伊丹郷町の説明では、伊丹の地形・惣構・近衛家等のキーワードで有岡城時代から江戸時代へ続く伊丹の歴史の流れを意識しての説明が行われました。ただ、この辺りは日影がなく、早くも暑さが気になる感じになってきました。また、大溝跡等写真撮影される方がおられ、どうしても遅れがちになります。撮影タイムを少し設けてもいいのかなと感じました。

長寿蔵ミュージアムの前で（木陰あり）小西酒造の説明があり、提示された前の本社の写真など、食い入るように見ておられました。続いて老松酒造（ここも木陰あり）についての説明があり、「御免酒」の意味、老松酒造の名前の由来についての質問が出て、明快に回答されていました。

ここまで約1時間の屋外でのガイドを終え、国の重要文化財に指定されています「旧岡田家住宅・酒蔵」に移動。特に文化財としての価値を強調してのガイドになりました。建物構造、間取り等の説明ののち、酒蔵内の椅子に座っての日本遺産の約5分のビデオ鑑賞もあり、参加者皆さん、ちょっとゆっくりされたかな、という感じを受けました。また、少し気分を変えてクイズ形式で、①世界遺産②無形文化遺産③日本遺産の違いについての説明があり、今回のテーマである『日本遺産』についての認識を高めていただいたようです。併せて、伊丹市立ミュージアム（含：旧石橋家）の概要説明があり、最後の長寿蔵ミュージアムに向かいました。

長寿蔵では、先ず建物の説明があり、その後、建物の2階に上がり、江戸時代の日本酒の当時の酒造道具を前にその製造工程を説明、全員熱心に聴いておられました。特に、伊丹諸白の醸造



技術の高さを表す「柱焼酎」、「木綿仕様の渋袋」について強調されていました。

会員 Y.H.氏がガイド終了の挨拶を宣言すると、全員から一斉に暖かい拍手が起きました。これで、ボランティアの会の役目は終了ということで、参加者は全員元気で長寿蔵レストランに向かわれました。

最後に、筆者の感想ですが、今回は一般的な史跡巡りではなく、伊丹の日本酒に特化したガイドであり、日本酒の奥の深さを感じさせるガイドであったと感じています。と同時に、なぜ伊丹で清酒が、という問い合わせの答えが少し分かってきたような気がします。 (山下 記)

史跡ガイドレポート ③

春爛漫、桜がお出迎え「城下町と清酒発祥の地、伊丹」

2025年4月9日（水）今回依頼の「伊丹市文化財ボランティアガイド」はAコース（伊丹郷町）約2時間です。Aコースは町の中心地域で坂も無く歩きやすいコースです。ガイドポイントは特に希望はないとの事なので今回は6ポイントをご案内しました。ご参加されるのは年に2回町歩きをされているグループで本日は13名の皆さんです。

ようこそ伊丹へ！春爛漫の好天気で桜も満開の伊丹が笑顔でお出迎えです。

JR伊丹駅直結のカリヨン塔前で10時30分に集合。ご挨拶とガイドの自己紹介、本日のお願い（広報に載せる写真にお顔は写さないが後ろ姿などは大丈夫ですか、などの確認）をしました。ガイドされる方の多さに驚かれている方もいらっしゃいました。

さあ出発です。駅前直ぐの「有岡城跡」は桜が満開。ガイドデビューの当会会員 Y.H. 氏の担当です。伊丹城から有岡城、その後の発掘など歴史を紹介、家城であった、など沢山の資料。そして石垣の説明ではすかさず会員 T.A. リーダーがサポートに入られます。初めてとは思えない堂々とした案内に拍手がおこりました。「沢山の内容だったなあ」と参加の方が感想を述べられていきました。



2番目ガイドは本泉寺で会員 M.M 氏が歴史、本堂、楠公塚、鐘楼を説明。「鐘は自動で毎日午後5時に撞かれる」との説明に「除夜の鐘は？」との質問。「午後11時30分から始まります」とこれもお答えしました。

ここから三軒寺前広場までの舗装された酒蔵通りでは参加者の皆さんもお話を弾んでいます。ここは車道と歩道との段差が無く危ないので、少しお声掛けをしながら進みます。

三軒寺前広場ではそれぞれのお寺の門前で会員 M.Y. 氏の「美しかったでしょうね」の声掛けで当時をしのび想像が膨らみました。三軒寺前広場も整備されていて樹木も美しくベンチで説明も聞いていただけます。

4番目の金剛院までの道は列がバラバラになりやすく、信号を一度に渡れる様にタイミングを合わせて進みます。ガイドは同じく会員 M.Y. 氏。門前で歴史と薬医門をガイド。ここでは、会員 T.A. リーダーが門の構造や名前の由来などについての詳しい説明がありました。

ことば蔵でのトイレ休憩。12時にはまだ時間が有りますが、「おなかが減った。」との声が聞こえきました。そろそろお疲れが見えてビールが頭をよぎりだした模様です。お昼には味覚でも伊丹を堪能できますね。

さあ、5番目の猪名野神社は会員 J.T. 氏。鳥居前、灯籠、本殿、句碑、そして奥の自然の台地の高低差を見てもらい、野々宮の碑、大灯籠、無患子(むくろじ)の木、手水の酒樽の蛇口等、ぐるりと回りました。J.T 氏が用意していた無患子の実を手に取り「固いね」と羽根つき等思いだされました。

いよいよ最後の旧岡田家住宅です。ここはもう一人のガイドデビューの会員 Y.K. 氏が担当。外観は石橋家との比較、中では樽から歴史、お酒の評価表や沢山の資料を専門家らしく用意万端です。そろそろ長寿蔵の予約時間が迫ります。「予約を遅らせるのでガイドを続けて欲しい」とのお申し出に最後までご案内できました。

旧岡田家住宅の前で記念撮影の後、長寿蔵入口までご案内してお見送りしました。今回初めてのガイドとは思えない落ち着いた様子のお二人には今後のガイドの期待が膨らみます。5人のガイドが終わると拍手が起り嬉しかったです。こちらこそ伊丹に来ていただいて本当にありがとうございます。

リーダーの総評は新人のお二人の次回からの活躍が期待される、そして今回のガイドのメンバーも事前の準備も含めてよく頑張りましたと高評価をいただきました。晴天の天候と桜の美しさが大きく力添えしてくれたように思います。

今回私は広報と写真担当でしたが、会員の皆さん様に日頃の勉強を頑張ろうと改めて思いました。

伊丹市文化財ボランティアの会では、A～F コースと特徴のあるポイントのガイドを無料でご案内しています。午前または午後の2時間まで、ご希望のポイントをご説明させていただいています。

お申込みは伊丹市のホームページまたは伊丹市文化財ボランティアの会のホームページのお申込みフォームからお願いいたします。担当者から折り返しご連絡をさせていただきます。

賑やかな阪神間の伊丹の街で歴史のロマンに触れてみませんか。美味しいお酒もお待ちしております。

(妹尾 記)



史跡ガイドレポート ④

ガイドの楽しみ～依頼者との出会い・触れ合い・語り合い～

5月31日午後2時からAコース（有岡城跡から岡田家住宅まで）のガイド依頼を受けた。依頼者は大阪のシニアクラブ。旅行、会食などを楽しむグループのようで、今回の参加者は10名だった。阪急伊丹改札口で午後2時に待ち合わせた。午前中は中山寺と荒牧バラ公園を見学し、阪急伊丹に来たという。

時間どおりに全員が集合し、先ずは有岡城跡まで歩いて、カリヨン塔前の説明板から案内を始めた。有岡城跡の特徴は惣構構造、石垣遺構、庭園遺構の3つで、それぞれについて概説。官兵衛ゆかりの藤とカリヨン塔についても簡単に説明をして、石垣遺構へ移動。1976年の発掘調査で出土した石垣を見ながら、その重要性について触れた。

荒村寺の後、本泉寺へ。楠木正成墓所を中心に話した。大溝跡は、城下町から酒造りの町へ移行した伊丹の象徴的な遺構であることを強調。三軒寺広場の3つの寺については、法嚴寺の大クス、正善寺の薬医門と墓股、大蓮寺の伊丹氏供養塔と重点を絞って案内した。

金剛院、猪名野神社を巡る。猪名野神社を離れる前に参道の一番奥にある2基の燈籠を示して言った。「さあ、これから認知機能テストをしますよ。この燈籠の寄進者が誰であるか、確認してみてください」。全員が燈籠の後ろに回り、「松屋与兵衛」と口々に言う。「この名前を3分だけ、記憶にとどめておいてくださいね」。

最後の見学スポットは旧岡田家住宅。先ずは外で江戸時代町屋外観の特徴から始めて、館内に入る。下店に設置の説明版を見てもらいながら、建物の最初の所有者が「松屋与兵衛」であることを明かした。

「この名前を覚えていますか」。参加者が覚えていると答えたので、すかさず「認知機能テスト全員合格！！」と告げる。

館内をざっと見て回り、建物の概要、伊丹酒造りの歴史、江戸積酒造業まで敷衍して、午後4時20分にガイドを終えた。週間予報では雨も降ることになっていたのだが、雨が降ることなく、全行程を歩くことができた。依頼団体のメンバーは史跡めぐりの後、阪急伊丹駅そばにある銭湯でお湯につかり、駅そばの居酒屋で酒盛りをする予定だという。

翌日、依頼団体の世話役からお礼のメールが届いた。「昨日はありがとうございました。あのあととの「反省会」では、皆がHSさんの説明が、丁寧で分かりやすかったと異口同音に申しておりました。楽しく充実した2時間でした。感謝いたします。これからもお元気で長く活動をお続けください」。

ガイドの楽しみ、喜びとは何か。伊丹に散在する文化財について、調査研究をして、その成果を発表する機会が与えられる。文化財の重要性を市民に伝える機会が与えられていることであろう。家族ですら話を聞いてくれない風潮のなかにあって、初めて会う人たちが、熱心に、目を輝かせながら、自分の話に耳を傾けてくれる。何という喜びであろうか。

伊丹市民をはじめ伊丹市外から訪ねて来る人たちとの出会い、触れ合いの機会があること。2時間程度行動を共にし、交流を図る。お互いに打ち解け合い、親しくなるのである。そういう間柄になるからこそ、「認知機能テストをします」などと、ある意味失礼で、乱暴な発言をしても、ユーモアとして笑いをもって受け止めてくれるのである。

こんなに楽しく、喜び溢れる活動であるから、一部の会員だけではなく、会員全員で分かち合いたいものである、といつも思っている次第である。

(末次 記)

史跡ガイドレポート ⑤

ガイドコースのご要望対応

依頼されてきた団体は、月1回の例会で大阪近郊を訪れており、今回は第294回とたいへん歴史のある活動をされています。参加者は43名、大阪近郊からの参加が中心で、伊丹在住の方もおられました。今回は、午前中に田辺聖子さん関連の講演会を伊丹市立図書館・ことば蔵で企画され、午後にわれわれの史跡ガイドで伊丹を散策されるコースでした。

史跡ガイドで依頼が最も多いA伊丹郷町コースですが、ことば蔵からのスタート（通常はJR伊丹スタートが多い）、43名と多人数（班分けが必要、2班構成とした）、ガイド時間が1時間30

分と、やや短めと微妙に通常と違うご要望です。そこで、主な説明地点を2地点ずつ、<猪名野神社北・南><岡田家・三軒寺広場><本泉寺・有岡城址>の3地区に分け、各地区で班のガイド順を逆にすることにより、同じ地点で2つの班が重なることを極力避けるようなコースにしました。結果、若干の時間超過（前もって伺っていた許容範囲内）はあったものの、問題なくガイドを終えることができました。



多人数のため、全員の方にちゃんとガイド内容をお伝えできるか心配もありましたが、皆さん熱心に集中してお聞きいただけ、和やかな雰囲気でガイド活動ができました。以下、参加者の方からの感想です。

●丁寧かつわかりやすい説明を行なっていただくとともに、高齢の参加者が多いにも関わらずお気遣いをいただいたガイドに努めていただき、誠にありがとうございました。（代表の方）

●伊丹郷町を中心とした産業の成長の歴史の中で、市全体が発展を遂げたことがよく理解できました。

●住んでいても知らないことが多く、まとめて話が聞けて良かった。伊丹の歴史を改めて認識し、感心した。（伊丹在住の方）

メンバーの日ごろの努力による丁寧なガイドが、参加者に満足いただけているようで何よりです。また、ご要望に応じてコースを考え、提案し、大過なく実施できたのも喜ばしいことです。一般の方々にはなかなか認識されていない伊丹の歴史、重要性を、我々の活動により少しでも知ってもらえれば幸いです。

（岩崎 記）

研修サロン班活動報告 伊丹旧村めぐり 「中野 (Revival)」

4月17日（木）午前9時30分、いつものスワンホールに13名が集合、ようやく春らしい気持ちのいい日です。ここ数年の新入会員も増えたため、旧村を再訪するRevival企画で、4年前と同じMさんのご案内です。江戸前期の新田開発とそこに生まれた新田中野村を巡ります。主な行程は、行波大明神（天神川沿いにある昆陽池守護神）→新田中野村の旧道（有馬街道）→中野稻荷神社→素戔鳴神社→地域教育発祥の碑→常休寺→孫左衛門池跡地→昆陽下池堤跡→昆陽池助安出樋です。今回の活動で印象に残ったことがらを思いつくままに書きます。

・新田中野村の旧道

中野大橋北詰を少し西に入ったところにある南北の道が中野村の中心通りになります。村の南の入り口にあたるところに常夜灯や道標、庚申堂があり、その先に旧道らしい緩やかに曲がる道が続きます。通りに沿って今も立派な木造邸宅が並び、中野村の繁栄が感じられました。北の端には村の氏神である素戔鳴神社があります。



常夜灯と旧道

・新田開発のリーダー浅野孫左衛門のゆかり

浅野孫左衛門は新田開発開始時のリーダーで、長年この地区で慕われてきたことが感じられます。素戔鳴神社の境内にある孫左衛門ゆかりの浅野



浅野靈神社

靈神社にお詣りしました。黄檗宗常休寺では孫左衛門の墓が丁寧に管理されています。昭和38年まで常休寺のそばにあったため池は孫左衛門池という名で、その跡地を偲びながら歩きました。付近には、昭和・平成に建てられた新田開発・孫左衛門関連の立派な顕彰碑もあります。

・中野村の木々

新緑の季節で、常林寺裏の有馬街道沿いのエノキ（市保存樹木）の緑が鮮やかでした。中野稻荷神社のイヌマキや素戔鳴神社のクスノキとともに中野村の発展の様子を眺めてきた巨木です。



・阿部備中守正次の墓発見

口酒井の松源寺にあった阿部正次の墓（市史跡）が、お寺の解体によりどうなるか危惧されていましたが、常休寺の墓地の一角に移転されていることがわかりました。異なる場所ですが保存されていくことに安心するとともに、日々変化する文化財の状況を目の当たりにし、繰り返し足を運ぶことの大切さを改めて認識しました。

春らしい天神川岸のお花畠を楽しみ、新田開発に苦労しながら村を作っていました中野村の人々の苦労や思いを少し感じた気になり、先人の歴史の保存についても考えさせられた屋外研修でした。

（岩崎 記）

阿部正次の墓



研修サロン班活動報告

近隣市めぐり 「服部天神から春日大社南郷目代今西氏屋敷」

5月15日、800年続く今西家のお屋敷訪問を目玉に、豊中服部天神駅界隈を巡りました。

☆服部天神駅のクスノキ

宝塚行き駅ホームから、向かいの大木を望む。元は服部天神の敷地内のご神木。京阪萱島駅のクスノキの方が大きいですが、こちらは神棚も設置していました。



☆服部天神

足の神様だけあって、巨大な下駄に、下駄回廊ありと下駄推し。「下駄回廊あじさい」は、可愛らしく色鮮やかで、皆さん見上げて楽しんでおられました。皆さんとお参りしたので、きっと健脚のご利益があるはず。これからもあちこちと巡りましょう。



注目の鬼貫の句碑。すこし奥まったところにあり（やっぱり豊中の三代文化人の碑が幅を利かせています…）、Aさんが句について解説してくださいました。なぜ、ここに鬼貫の句碑があるのか？が話題に。伊丹以外の鬼貫句碑。なんだか、市外で伊丹の方とばったり出会った時のような気持ちになりました。

☆服部住吉神社

大阪府最古の能舞台を特別に見せていただき、宮司さんによるお話も。掲げられていた額に、小西新右衛門の名があるのをSさんが発見！一同沸き立ちました。

☆今西氏屋敷

現在も今西さんが居住する敷地。入ってすぐの右手には、南郷春日大社があり、社の存在感に普通のお屋敷ではないことがみてとれます。建屋の内部は見られなかったので、年に一度の内部公開に機会があれば参加したいものです。

豊中郷土資料館の学芸員の方の解説後、屋敷の外堀も案内して頂きました。約 216m 四方の範囲で、実際に歩いたことでその広大さを体感。小曾根校区南郷の家（老人憩いの家）はあいにく休館でしたが、扉のガラス部分から玄関を覗くと上がり口が見え、そこがちょうど堀のラインになっているそう。皆でのぞきこむのも楽しく、またこういったフックが、理解や興味を持つことに繋がるなと思いました。

帰りは、クスノキのある大阪行き駅ホームから乗車。幹に触れて今日の行程の仕上げをしました。M さんプレゼントの今回、たくさん学ばせてもらい、お世話になった皆さん、参加の皆さんにお礼を言いたいです。



研修サロン班活動報告

近隣市めぐり 「灘・酒蔵巡り」

6月19日、空は晴れて総勢 12名機嫌良好。初めての六甲ライナーに乗り、皆さんの後ろでワクワクします。兵庫県は日本酒生産量が全国の約3割、日本一です。県内にある酒蔵 69 蔵、そのうち灘五郷には 26 蔵あります。灘の酒は男酒といい、京都伏見の酒と比べてキリとした味を得意としています。

魚崎駅から住吉川の川筋を海側に下り、菊正宗酒造記念館に向かいます。途中に、剣菱、少し西に白鶴と知った名前に出会い、灘に来ているとちょっと嬉しいです。菊正宗さんは日本酒製造で上位にランクされる酒蔵で、この記念館は酒の製造工程がきちんと展示され、説明いただいたガイドさんも気持ちよく的確に案内して下さいました。



菊正宗酒造記念館

有名な灘の生一本は、単純に“灘で造られた酒”というほどの認識でしたが、灘酒研究会が英知を結集し、兵庫県米のみを使用して醸しあげた純米酒。現在は菊正宗や白鶴など8つの酒蔵がその基準を守り、灘のブランドとして売り出しています。お楽しみの試飲タイムですが、飲めないので手を出した私は、少し味見した残りの処理にあたふたします。庭に出ると精米に使われていたという水車があり、水を出して回してくださいました。



庭の水車

次は浜福鶴工房に向かいます。まだ6月というのに暑いです。浜福鶴さんではゆっくりと現在の近代的なお酒造りの工程について説明を受け、質問タイムもありました。1階の売店でも試飲タイムがありました。私はここで甲南漬けを楽しみにしていたので、急いで買います。



浜福鶴工房

お楽しみの昼食は、櫻正宗記念館の櫻宴です。暑い日でしたから、ゆっくりして落ち着いた雰囲気の座敷はそれだけでもう御馳走でした。おいしいお膳の中でも女性陣が一番声を上げたのは、きれいなご飯です。きれいに揃った淡水真珠のように艶や

かで、さすが酒造会社のご飯です。お米を買うのに苦労している今の時代のせいかしら。兵庫は我が伊丹を含め名実ともに酒の国ですね。酒の工程は何度も聞いているのに覚えられず、いつも新鮮な思いで聞いています。楽しかったお陰で、暑さもあまり感じない帰り道でした。今回ご担当のHさん、ありがとうございました。

(中山 記)

「GI 伊丹」このマーク、ご存知ですか？

2024年11月29日に国税庁長官の指定を受け、伊丹市内の水を使用するなどの厳格な生産基準*1を満たした清酒のみが「GI 伊丹（右図）」として認められ、その名称を商品に表示できるようになりました。具体的には、下記の5銘柄が「地理的表示（GI）」に指定されています。兵庫県内で日本酒がGI指定を受けるのは、「はりま」「灘五郷」に次いで3例目となります。

- ①特選 白雪 伊丹諸白 大吟醸
- ②特選 白雪 伊丹諸白 本醸造
- ③辛口本醸造 老松 伊丹諸白
- ④KONISHI 大吟醸 ひやしほり
- ⑤特選 白雪 伊丹諸白 樽酒



GIは地理的表示制度（GI- GEOGRAPHICAL INDICATION）の略称。

生産地の持つ自然的・人的条件（気候・自然環境・伝統的な技法など）に紐づいた特性を持つ伝統的な商品の名称（地域ブランド）を、国が地域共有の知的財産として保護する制度です。世界100ヶ国以上にある制度ですが、日本では2015年から導入されています。

制定された背景には、「生産者の利益の保護」と「需要者の利益の保護」という二つの目的があります。生産者の方々が多くの時間と労力をかけて高品質な商品を生産しても、それが市場においてきちんと評価され、その価値が認められなければ適切な利益を得ることができません。また、そのような地域ブランドの名称について他人の模倣を許してしまうと、それまで費やしてきたコストだけでなく、本来、生産者の方々が得られるはずであった利益も横取りされてしまう可能性があります。このような事態を防ぐため、一定の要件を満たした地域ブランド商品を国が適正に評価するとともに、仮に他人が模倣した場合には国が取り締まり、特定の地域を生産地として、その土地の気候や風土と結びついた品質や歴史をもつ商品の名称を登録する制度を言います。「ここにしかない！」を証明し、守ってくれる制度です。そう言えば、徳川吉宗治世の享保3年（1743）に近衛家が「伊丹郷御改め」という焼印を作り、菰樽に焼き付けて原産地保証の印としてニセ酒を排除しようとしていたことが思い出されました。旧岡田家住宅・酒蔵の下店に展示されている白雪等の菰樽にまつわる歴史の説明の中で「GI 伊丹」を紹介したいと思いました。

(記 吉岡)

*1 厳格な生産基準とは

「国内産米のみを用いた米及び米こうじを用いていること」や「伊丹市内で採水した水のみを使用していること」、「香味及び色沢が良好な『特定名称酒』であること」など。

(伊丹市 HP 「清酒発祥の地 伊丹」の清酒が「地理的表示（GI）」に指定されました！より引用)

令和7年度 市民ガイドの予定 『伊丹市内 西国街道を巡ります』

本年度市民ガイドは、伊丹市内の西国街道を3回に分けて開催する予定です。

- ・第1回 9月27日（土）西国街道南
- ・第2回 10月25日（土）西国街道西
- ・第3回 12月20日（土）西国街道北

*上記の予定は予告なく変更する場合があります。ご了承下さい。



活動記録（令和7年5月～7月）

【定例会】5/20（火）・6/10（火）・7/8（火）

【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加人数]

5/21（水）[清酒発祥の地 伊丹、5人]、5/23（金）[伊丹郷町、28人]

5/31（土）[伊丹郷町、10人]、6/1（日）[伊丹郷町、43人]

6/11（水）[伊丹郷町、11人]、6/21（土）[伊丹郷町、9人]

6/21（土）[清酒発祥の地 伊丹、11人]、

7/12（土）[清酒発祥の地 伊丹、10人]

【研修サロン班】5/8（木）勉強会、5/15（木）屋外研修「今西氏屋敷（豊中・服部）」

6/5（木）勉強会 「荒木村重と有岡城」（講師：元当会会長 池田利男氏）

6/19（木）屋外研修「灘酒蔵めぐり」

7/3（木）勉強会 「旧伊丹郷町の変貌をたどる」

7/17（木）勉強会「新・伊丹史話を読む」

【学習支援班】例会：5/27（火）、6/17（火）、7/15（火）

対外活動：6/8（日）アーバンコンフォート子ども会（デジタル紙芝居）

7/23（木）ラスター寺小屋（デジタル紙芝居・工作）

今後の予定（令和7年8月～10月）

【定例会】8/12（火）・9/9（火）・10/14（火）

【史跡ガイド】[ガイドコース名、参加人数]

9/13（土）[伊丹郷町館、10名]

10/5（日）[伊丹郷町、15名]、10/25（土）[清酒発祥の地、30名]

【市民ガイド】9/27（土）「第1回市民ガイド 西国街道南、15名」

10/25（土）「第2回市民ガイド 西国街道西、15名」

【旧岡田家住宅・酒蔵 ガイド当番】9月15日から11月30日まで実施予定

【学習支援班】例会：8/19（火）、9/16（火）、10/21（火）

対外活動：8/21（木）ことば蔵（デジタル紙芝居・工作）

9/19（金）神津こども園（紙芝居・デジタル紙芝居）

【ガイド勉強会】8/26（火）西国街道南座学、9/23（火）西国街道南実践、

10/28（火）市南部コース座学

伊丹市内文化財ボランティアガイドのご案内

伊丹市内にある文化財（史跡）のガイドをご希望される方は、
申込書に必要事項をご記入の上、下記へお申し込みください。



*申込書は右の2次元バーコードよりダウンロードして下さい。

◇申込書をファックスまたはご持参の場合

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当へご持参いただくか、

ファックスで送信願います。

☎: 072-784-8090 FAX 072-784-8048

◇申込書をメール送信の場合

文化財ボランティアの会にメール (ibunbora@yahoo.co.jp) でお申込みください。

●ガイドコース

【A 伊丹郷町コース】

有岡城跡・荒村寺・市立伊丹ミュージアム（旧岡田家住宅・酒蔵、旧石橋家住宅）
猪名野神社など

【B 伊丹緑道コース】

猪名野神社・伊丹緑道（道）・白洲屋敷跡・辻の碑・伊丹廃寺跡など

【C 行基の足跡コース】

昆陽池・東天神社・山陽道（西国街道）・昆陽寺など

【D 清酒発祥の地コース】

鴻池神社・慈眼寺・鴻池稻荷祠碑・容住寺・天日神社など

【E 市南部コース】

御願塚古墳・都市景観形成建築物・須佐男神社・南野神社など

【F 市東部コース】

有岡城跡・桑津神社・加茂神社・称名寺・春日神社・伊丹スカイパークなど

私たちと一緒に 文化財のガイドをしてみませんか

文化財ボランティア養成講座のご案内

当会は、平成8年に伊丹市教育委員会が主催した文化財ボランティア養成講座終了者有志により設立されました。現在約40名の会員が活動しています。会員は郷土の文化財を愛し、学び、それを更に後世に伝える取り組みをしています。また、様々な経験学習から学び得たことを広く市民に還元することを目的としています。



なお、会員には正会員と準会員があります。今年も11月に予定されている文化財ボランティア養成講座（全4回）を受講・修了すれば正会員となります。ぜひ、私たちの仲間になって活躍の場を見つけて下さい。

■文化財ボランティア養成講座についてのお問い合わせは下記まで。

伊丹市都市活力部まち資源室文化振興課 文化財担当（☎072-784-8090）